

# 知事記者会見の概要

日 時：令和7年1月6日(月) 10:31～10:56

場 所：502会議室

出席記者：10名、テレビカメラ4台

## 1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

## 2 質疑応答の項目

### 代表質問

- (1) 令和7年 年頭のあいさつ

### フリー質問

- (1) 5期目への抱負について
- (2) 人口減少対策について

(※知事選立候補予定者としての質疑応答部分を除き掲載しています。)

<幹事社：朝日・荘日・NHK>

## ☆発表事項

### 知事

県民の皆様、新年明けましておめでとうございます。

令和7年の新しい年がスタートいたしました。今年の元旦は山形らしい雪景色が広がりました。皆様も清々しい気持ちで新年をスタートされたことと思います。

今年は「巳年」でありまして、「巳」は「蛇」を表します。蛇は古来より、豊穰や金運をつかさどる神様として祭られることもあり、神聖な生き物として認識されてきました。たくましい生命力があり、脱皮をするたびに表面の傷が治癒していくことから、医療・治療・再生のシンボルともされてきております。

こうした再生の意味を持つ「蛇」年に当たる今年は、最上・庄内地域を中心に、自然災害として、本県に過去最大の被害をもたらした昨年7月の大雨災害からの「復旧・復興」に大きく弾みをつけるとともに、被災された全ての方々、お一人おひとりが一日も早く日常生活を取り戻すことができるように、市町村とともにしっかりと寄り添いながら支援にあたっていかなければならないと決意を新たにしているところであります。

被災地の一日も早い復旧・復興に向けて、市町村や関係の皆様と連携し、全力を挙げて取り組んでまいります。

また、<sup>じっかんじゅうにし</sup>十干十二支では、「乙巳」の年であります。「乙」は「木」を象徴しておりまして、柔軟性や成長を意味します。このため、「乙巳」は、<sup>きのと</sup>学んできたことや努力してきたことが、屈曲して軋むほどになり、上蓋を跳ね上げ一気に極限まで伸びる勢いのある年になると言われております。

まさに、これまで地方創生、やまがた創生のために練り上げてきた構想やプロジェクトを前進させる絶好の機会になるものと捉えてよいのではないかと考えております。

具体的には、まず、東北公益文科大学の公立化が挙げられます。若者の地元定着を促進するとともに、さらに魅力的な大学となるよう、令和8年4月の公立化に向けた準備と機能強化の検討を、庄内地域2市3町、学校法人東北公益文科大学とともに着実に進めてまいります。

また、山形新幹線米沢トンネル（仮称）は、山形県の未来を拓く希望のトンネルであります。このトンネルの早期事業化に向けては、県とJR東日本との間で、令和4年度に「（山形新幹線米沢トンネル（仮称）整備計画の推進に関する覚書）」を締結しました。現在、共同で地質調査を実施しており、令和6年度中に完了する予定であります。

この調査により、想定ルートを設定できれば、事業化する上で必要な調査は完了となる見込みであり、早期に事業化できるよう、政府の財政支援の獲得を含む事業スキームの構築が重要となってまいります。

オール山形での要望活動など、さまざまな機会を捉え、政府への働きかけを重層的に行い、一日も早い事業化につなげてまいりたいと考えております。

さらに、インバウンド需要を最大限に取り込むためには、空港の滑走路延長を含め、機能強化について検討していく必要があります。

平時のインバウンド拡大のみならず、東日本大震災時の実績をみてもわかりますように災害時の対応において山形空港などはものすごく重要な役割を果たしました。改めて東北地域の防

災拠点空港として、国土強靱化の面からも将来像を描いていくことが重要であると考えております。

山形・庄内両空港の「空港将来ビジョン」の策定に向けて、しっかりと議論を深め、前に進めてまいります。

さて、今年は、本県でさくらんぼや西洋なしなどの栽培が始まってから 150 年という節目の年を迎えました。「やまがたフルーツ 150 周年」であります。先人たちが一途に果実に取り組み、挑戦を続けてきてくださったからこそ、現在の「さくらんぼ県やまがた」があります。

さくらんぼは全国の方々、海外の方々からも人気抜群で、観光やスイーツ、飲料、デザイン、グッズなどにもつながる優れものであります。

その 150 周年という大切な節目の年を情報発信の好機と捉え、本県の果樹産業全体の発展につなげていきたいと考えております。

県を挙げて、この記念すべき年をともに祝い、盛り上げていくため、「いちずに、かじつ。」をキャッチフレーズに掲げて、県内外でのプロモーションのほか、市町村主催のイベントや民間企業の商品とのタイアップ企画を展開するなど、オール山形で「やまがたフルーツ 150 周年」を盛り上げ、県産フルーツの魅力発信や果樹産地の活性化に積極果敢に取り組んでまいります。

ここで、最近のエピソードを一つ、紹介したいと思います。

今年の 1 月 4 日に天童市で開催された、超促成栽培さくらんぼの初出荷式に、私、初めて参加してきました。生産者の花輪さんから、これまで相当にご苦労をされてきたというお話や、多くの方々から応援され、助けられてやってくるのができたということをお聞きしました。「そろそろ辞めようかな」と思っていたら、その時に、「やまがた紅王」という新しい種類のさくらんぼが登場して、「もう少し続けてみようか」という気になったそうでもあります。

私はそのお話をお聞きしまして、花輪さんも、本県の「さくらんぼ県」を築いてくださったチャレンジャーのお一人だと確信をいたしまして、心から敬意を表したところでございます。

また、「やまがた紅王」には、人を元気にして希望を与えてくれる力があるということも実感してまいりました。

ちなみに、その日に初出荷されたさくらんぼが、次の日の 5 日に全国の市場で販売されまして、初競りというわけではありますが、2L（サイズ）500 グラム桐箱詰めに 150 万円の値が付いたそうでもあります。「やまがたフルーツ 150 周年」に合わせていただき、弾みがついたものと思っております。

次に、西村山（地域）の新病院整備につきましては、昨年末に基本構想をお示ししたところでもあります。年度末の基本構想の策定に向けて、引き続き寒河江市とともに検討を進めてまいります。

また、北村山地域におきましても、北村山公立病院の新病院整備に係る地元の 3 市 1 町で構成されている検討委員会で協議される内容や考えをよくお聴きしながら、必要な助言や支援を検討してまいりたいと考えております。

新スポーツ施設整備につきましても、県と山形市との間で連携を進めてまいります。

県と市では、厳しい財政状況や、山積する行政課題を踏まえ、より効率的・効果的に新たな

スポーツ施設を検討する必要性を共有しており、県民・市民のウェルビーイング向上を目指して、新施設の共同での検討を進めているところです。子どもたちの夢の実現、郷土愛の醸成、若者・女性の活躍の可能性拡大などにつながるよう、県と市で力を合わせて取り組んでまいりたいと考えております。

ここまで、本県の重要課題・施策についてお話をしてまいりました。

改めて、我が国を取り巻く世界的な社会経済情勢について見てみますと、欧米における高い金利水準や、中国における不動産市場停滞の継続、また、アメリカの今後の政策動向、不穏な国際情勢などから目が離せない状況となっております。これらの海外の動向が本県経済にどのような影響を及ぼしていくのか注視していく必要があります。

一方で、人口減少に伴う人手不足の深刻化や物価高騰の長期化などが喫緊の課題となっており、課題は山積しております。大雨災害で被災された方々や困難な状況にある方々に常に寄り添いながら、県民の皆様、市町村とともに力を合わせて厳しい状況を乗り越えていきたいと考えております。

現在、「第4次山形県総合発展計画」の次期実施計画の検討を進め、今年度中の策定を目指しているところです。直面する課題に対して積極果敢にチャレンジしながら、「人と自然がいきいきと調和し、真の豊かさと幸せを実感できる山形県」の実現に向けて、取組みを加速させてまいります。

以上、年頭にあたっての所感を申し上げます。令和7年、2025年が県民の皆様にとりまして喜びと希望に満ち溢れた素晴らしい年となり、山形県にとりまして再生と飛躍の年になりますことを切に願っております。

まだまだ寒さが続きますので、県民の皆様、記者の皆様、くれぐれもご自愛ください。本年もどうぞよろしく願いいたします。

## ☆フリー質問

記者

読売新聞の仲條です。明けましておめでとうございます。

年末年始をどのようにお過ごしになられたかというところを教えていただけないでしょうか。

知事

はい。ほとんど年末年始の休みというのはありませんでした。

お客さんが来たり、また、挨拶の準備をしたり、公務ではさくらんぼの初出荷式に初めて参加したりというようなことで、元旦には元旦参りということで神社を回らせていただきました。

そのようなことで、本当に目が回るほど忙しかったなというのが現実でありまして、ちょっと鼻風邪もひいたりですね、先ほど部長会がありまして、皆さんどういふふうにご過ごしたかなというようなお話で、お休みが結構あったんですけど逆に風邪をひいてしまったとか、インフルエンザにかかってしまったとか、皆さんやっぱり休みは休みで良いんだけども体調を崩されたりとかいふ方が結構いましたので、のんびりもできたけれどもそういうふうにご過ごして

を崩したというようなこともあるのかなと思っております。

記者

ありがとうございます。

記者

NHKの岡野です。あらためて明けましておめでとうでございます。今年もよろしく願いいたします。

今のに関連してなのですが、おみくじとかは引かれたのでしょうか。

知事

すいません、おみくじは引きませんでした。お参りをさせていただきます。

記者

朝日新聞の高橋です。本年もよろしく願いいたします。

先ほどの発言にございました人口の件なんですけれども、先月現在で100万8千人台ですかね、このままいくと2025年中には東北で2番目の100万人割れというのが現実味を帯びてきているわけなんですけれども、この件についての率直な受け止めをお伺いしたいのですが。

知事

はい。100万人を割るといのはですね、大変ショッキングなことだなと私は思っております。県民の皆さんにとっても100万人を割れるというのは一つの大きな節目と言いますかね、転換期のように受け取られる方が多いんじゃないかというふうに思いますし、私もやはり一つの通過点ではあるんですけれども、やはり大きな危機感を持ってこれは迎えなければいけないなというふうに思っています。